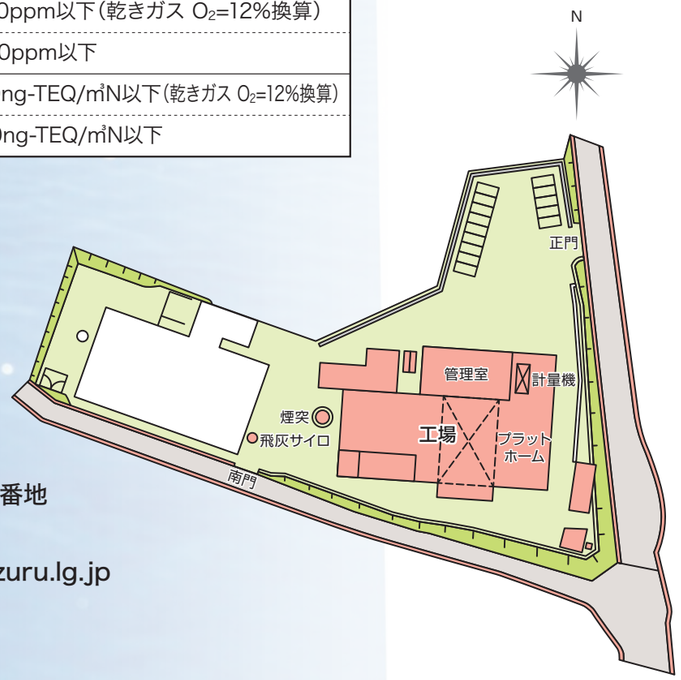
舞鶴市清掃事務所

工場の説明

施設概要	処理能力		120t／日（60t／24h×2炉）
	施設稼働開始		平成5年4月
	ダイオキシン対策工事		工期　平成13年6月～平成14年11月
	整備工事		工期　令和元年12月～令和6年2月
主要設備方式	受入供給設備		ピット＆クレーン方式
	燃焼設備		ストーカ方式 （乾燥帯＋燃焼帯＋後燃焼帯）
	燃焼ガス冷却方式		水噴射方式
	排ガス処理設備		ろ過式集じん器（バグフィルタ） 消石灰吹込み装置 活性炭吹込み装置
	通風設備		平衡通風方式
	灰出し設備		主灰：主灰コンベヤ＋薬剤噴霧＋主灰ピット 飛灰：ダストコンベヤ＋飛灰サイロ
	排水処理設備		中和沈殿ろ過方式（再循環無放流）
	電気設備		受変電設備／動力制御設備
	計装設備		中央監視操作盤／工業用テレビ設備
公害防止対策	ばいじん濃度	保証値	0.02g/m³N以下
		基準値	0.15g/m³N以下
	塩化水素濃度	保証値	250ppm以下（乾きガス O_2=12%換算）
		基準値	430ppm（700mg/m³N）以下
	硫黄酸化物排出量	保証値	K値10.0以下（乾きガス O_2=12%換算）
		基準値	K値11.5以下
	窒素酸化物濃度	保証値	150ppm以下（乾きガス O_2=12%換算）
		基準値	250ppm以下
	ダイオキシン類濃度（排ガス）	保証値	1.0ng-TEQ/m³N以下（乾きガス O_2=12%換算）
		基準値	5.0ng-TEQ/m³N以下



舞鶴市清掃事務所

敷地面積　10,226.17㎡
所 在 地　〒625-0062
京都府舞鶴市字森1515番地
電話番号　0773-63-1614
E-mail　k-shisetsu@city.maizuru.lg.jp

舞鶴市清掃事務所ごみ処理の流れ

ごみ投入

収集車(パッカー車)で搬入したごみをごみ計量機で計量し、ごみ投入扉よりごみピットへ投入します。
ごみピット内のごみは、ごみクレーンで十分に撹拌した後、ごみ投入ホッパへ投入します。

乾　燥

投入したごみを乾燥火格子で炉内の輻射熱や高温燃焼ガスによる対流伝熱、火格子下部より吹き込む燃焼用空気により乾燥します。

燃　焼

乾燥したごみを燃焼火格子下部より吹き込む燃焼用空気により、ほぼ灰になるまで燃焼し、その後、後燃焼装置において完全燃焼します。

排ガス処理

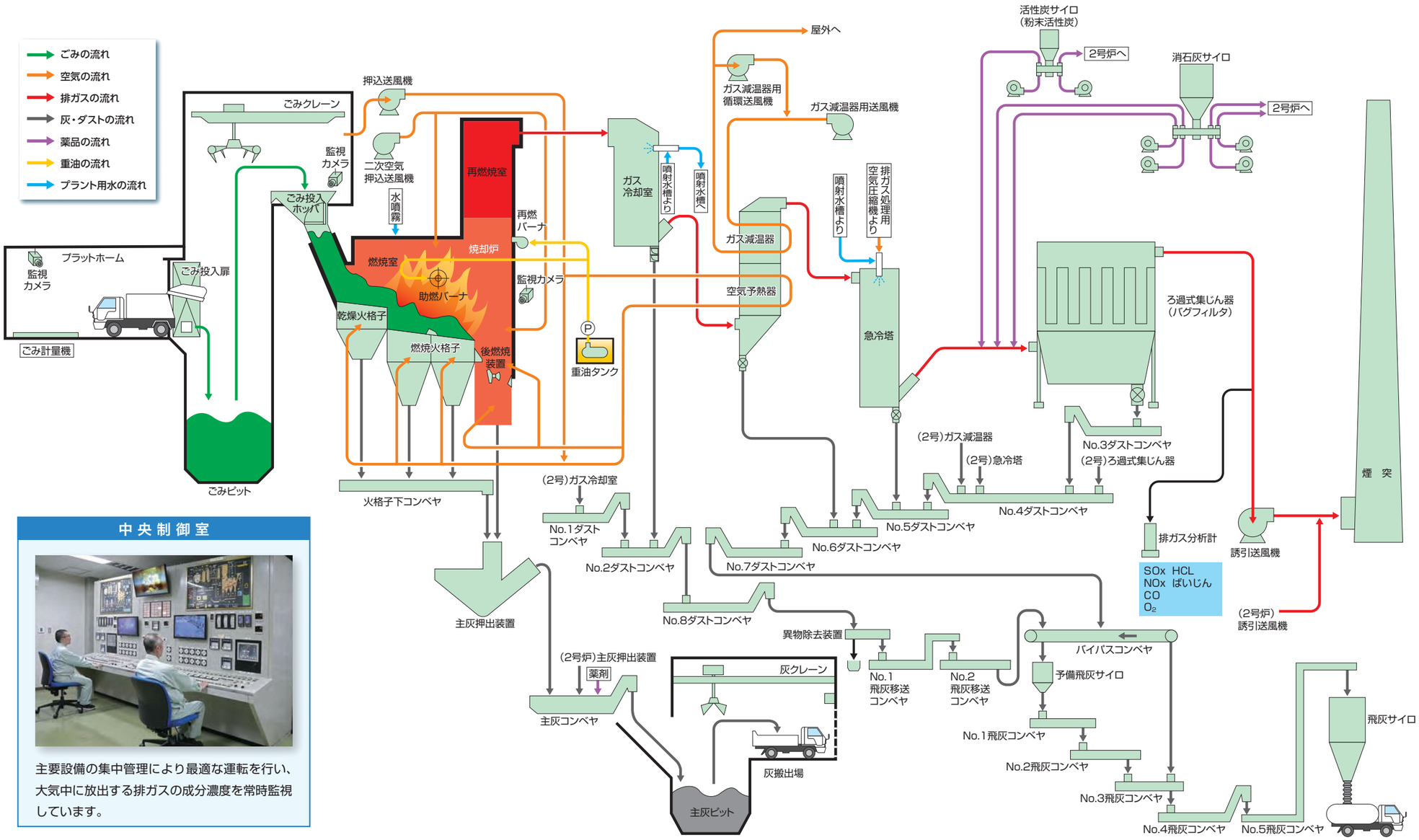
焼却炉は、ダイオキシン類の発生を抑制するため850℃以上の高温で運転します。炉内で発生した未燃ガスは再燃焼室において二次燃焼用空気により完全燃焼します。
排ガスは、ガス冷却室、空気予熱器、ガス減温器、急冷塔で冷却します。また、空気予熱器では排ガスの熱を利用し、燃焼用空気を温めます。
排ガス中の塩化水素は消石灰、ダイオキシン類は粉末活性炭に吸着させ、ろ過式集じん器で除去します。

灰の処理

主灰は火格子下コンベヤにより主灰押出装置に落とし冷却し、主灰コンベヤに移送します。主灰コンベヤ上で薬剤(キレート剤)を噴霧し、主灰中の重金属を安定化した後に主灰ピットに移送貯留し、灰ダンプで搬出します。
また、ガス冷却室、空気予熱器、ガス減温器、急冷塔、ろ過式集じん器で捕集した飛灰は、ダストコンベヤで飛灰サイロに運び、ジェットパック車で搬出します。

排水処理

洗車排水、床洗浄水等の雑排水は排水処理設備で中和凝集沈殿方式により浄化し、プラント用水として再循環使用し、場外に放流することはありません。



中央制御室

主要設備の集中管理により最適な運転を行い、大気中に放出する排ガスの成分濃度を常時監視しています。

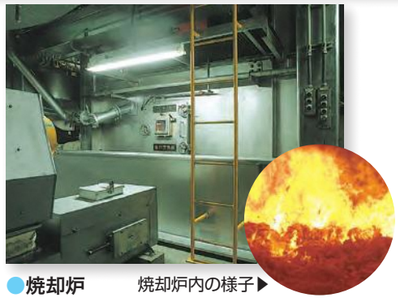
ごみ投入　燃　焼　排ガス処理　灰の処理

●プラットホーム

パッカー車で搬入したごみをごみ計量機で計量し、ごみ投入扉よりごみピットへ投入します。

●ごみピット・ごみクレーン

ごみを一時的に貯留し、ごみクレーンでごみを撹拌します。その後、ごみを焼却炉に運びます。ごみピット容量は約300tあります。



●焼却炉　焼却炉内の様子▶

ごみは850℃以上の高い温度で燃やし、灰にすることで大幅に量が減ります。

●空気予熱器　**●急冷塔**

空気予熱器は排ガスの予熱を利用して燃焼用空気を温めます。
急冷塔は水を使って、排ガスを200℃以下に冷やします。

●ろ過式集じん器

排ガス処理後の消石灰、粉末活性炭及び飛灰を、ろ布で捕集し、排ガスをきれいにします。

●主灰ピット

主灰を主灰ピットに貯留したのち、灰ダンプで搬出し、大波上最終処分場で埋立処理をします。

●飛灰サイロ

飛灰を飛灰サイロに貯留したのち、ジェットパック車で搬出し、市外のリサイクル工場へ運び、セメントの原料等にリサイクルします。